

明治学院大学社会学部附属研究所主催

第22回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会

ソーシャルワーク実践とアセスメント

～実践の科学化をめざして～

2008年11月15日(土) 10:00~17:00

◆研修会ご報告◆

相談援助を業とする社会福祉士制度が発足して20年が経過しました。

ソーシャルワークと呼称しない社会福祉援助技術は、この間、わが国におけるソーシャルワーカーの業務に豊かな独自性や専門性を付与できる貢献を果たすことができたのでしょうか。

エビデンス・ベースド・プラクティスなる思考の枠組みにコミットできる実践の成果を十分に蓄積できたと言えるでしょうか。

ソーシャルワーカー業務の独自性を発揮できる機能の一つにアセスメントがありますが、その取り組み過程を通じて、ソーシャルワーカー「らしさ」を醸し出すに相応しい支援を利用者・当事者と協働しながら展開できる実践力を持ち合わせることができるようになったのでしょうか。

ここで、あらためてソーシャルワーカー「らしさ」を醸し出すアセスメントの方法を検証しながら、我々の業務の独自性なり専門性について考える機会としてみたいと思いました。

●基調講演「ソーシャルワーク実践とアセスメント」72名参加

－エビデンス・ベースド・プラクティスとの関連から考える－

講師：佐藤 豊道 (東洋大学 教授)

<基調講演 講師：佐藤 豊道 (さとう・とよみち) 先生のプロフィール>

略歴：1946年青森県生まれ

1978年東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程所定単位取得終了

2001年社会福祉学博士(東洋大学)

専門：ソーシャルワーク論(社会福祉方法論、社会福祉援助技術論)

主著：『介護福祉』有斐閣(共編著)、『ジェネラリスト・ソーシャルワーク研究』川島書店、

『社会福祉援助技術論』建帛社(共編著)、『社会福祉援助技術論 上・下』川島書店(共編著)

基調講演 1



基調講演 2



ワークショップ

ソーシャルワーク実践における

アセスメントの意義と方法を考える

- ワークショップA「子どもと家族の領域での支援に取り組む方々のために」13名参加
事例提供者：塩田 規子（児童養護施設房総双葉学園 総括主任）
コーディネーター：北川 清一（本学教授）



● ワークショップB「高齢者の領域での支援に取り組む方々のために」 18名参加

事例提供者：青木 明子（養護老人ホーム敬愛の園 主任生活相談員）

コーディネーター：杉山 佳子（本学教授）



- **ワークショップC「障害者の領域での支援に取り組む方々のために」14名参加**
事例提供者：小林 克己（神奈川県発達障害支援センター（県立中井やまゆり園） 主査）
相沢 美樹（グループホーム・ケアホームウイズ 管理者）
コーディネーター：久保 美紀（本学教授）



● ワークショップD「医療機関での実習指導者の方々のために」5名参加

ファシリテーター：村崎 美和（北里大学北里研究所病院 ソーシャルワーカー）

コーディネーター：大瀧 敦子（本学教授）



◆主催◆ 明治学院大学社会学部附属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp

TEL 03-5421-5204・5205 FAX 03-5421-5205